全小家研会報

令和５年度２号　No.164
全国小学校家庭科教育研究会

令和６年2月１日発行　　発行人　加園　正子
編集人　酒井　由江
発行所　練馬区関町北3-23-34（〒177-0051）
練馬区立関町小学校内　☎03-3929-1301

もくじ

・全国小学校家庭科教育研究会長挨拶 …… 1
・令和５年度第２回常任理事会報告 …… 2
・大会宣言 …… 2
・第60回全国大会神奈川大会報告・大会要項 … 3
・神奈川の研究 …… 4
・神奈川大会参加者の声 …… 6
・公開授業 …… 7
・神奈川大会指導講評 …… 11
・各地区研究だより …… 12
・シリーズ「授業」 …… 14
・令和６年度全国大会三重大会案内 …… 16
・令和５年度年会費納入状況 …… 16

全国大会神奈川大会を終えて

全国小学校家庭科教育研究会
会長　**加園　正子**

異国情緒漂う横浜の地で、第60回全国小学校家庭科教育研究会全国大会神奈川大会を10月27日に盛会に終えることができました。大会前日の26日には、みなとみらいの素敵な夜景を背にレセプションを再開し、全国の先生方と懇親を深めることができました。

大会当日の午前中は、横浜市立東小学校、桜岡小学校での公開授業・研究協議会が行われました。御参観くださった先生方と、家庭科学習でいきいきとした表情で学びを深めている子供たちの姿を共有する貴重な機会となりました。

午後の全体会では、テンネー記念ホールを会場に、全国調査発表と地区研究発表（6ブロック）がありました。各地区からは、地域の特色を生かした実践発表がありました。発表後には、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官熊谷有紀子先生より御講演いただき、家庭科学習指導要領のよりよい実施に向けて、特に次の2点を御指導いただきました。

1　家庭科の目標や内容を常に確認して指導計画を作成すること。
2　子供の実態に応じた日常生活の中から、問題を見いだし、課題を設定できるように、教師が適切な手立てを準備し、授業実践に臨むこと。

理事の先生方におかれましては、各地区の研究会で、熊谷先生から御指導いただいたことを受けた指導計画を作成し、家庭科における子供たちの資質・能力を育める問題解決的な学習を実践していただきたいと思います。

さて、全国小学校家庭科教育研究会では、大会主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」としています。目の前にいる子供たちの「生活をよりよく工夫する資質・能力」を育成するために、学習指導要領のよりよい実施を目指しています。今後、児童が日常生活の中から問題を見いだし、課題を設定できるように、教師が適切な具体的な手立てを、研究していく必要があります。

神奈川県では、「自らの生活を豊かに創造する子どもの育成」を研究主題として①資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント、
②主体的・対話的で深い学びに向けた指導と評価、③誰もが安心して豊かに学ぶための今日的な課題への対応、の3つの視点で発表いただき、子供たちが対話を通して主体的に楽しく学び合う姿を参観することができました。

私たちに、このような素晴らしい学びの場と環境を提供くださった神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会をはじめとした神奈川県・横浜市の校長先生・教職員の皆さんに、深くお礼申し上げます。神奈川大会での、子供たちの学びの姿を、来年の三重大会(R6.11.22)につなげ、家庭科教育を充実・発展に生かしてまいります。

最後に、全国大会神奈川大会実行委員長　本庄則子先生、神奈川県小学校教育研究会家庭科部会会長　金野　幸恵先生をはじめとし、オール神奈川・横浜市で全国大会を運営してくださった先生方に心より感謝申し上げます。

お知らせとお願い

全国小学校家庭科教育研究会HP
サーバーID　　：zenkokukatei
サーバーパスワード：Zenshoka2021

令和6年度第1回常任理事会第64回理事総会
令和6年5月17日（金）15時（受付14:30～）
国立オリンピック記念青少年総合センター

令和５年度　第２回常任理事会（神奈川大会）報告

日　時　令和５年10月27日（金）15：00～
会　場　神奈川県民共済プラザ　メルヴェーユ
（司会　髙野庶務部長）

1　開会の言葉
2　会長挨拶　（加園会長）
3　開催地会長挨拶　（金野幸恵会長）
4　来賓紹介・挨拶
文部科学省初等中等教育局
教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター
研究開発部 教育課程調査官
熊谷　有紀子　様
5　議事　（議長：副会長）
①　大会宣言文（案）の審議　（岩﨑渉外部長）
②　大会運営について　（本庄実行委員長）
③　各部報告　（庶務・調査研究・広報・研究紀要・渉外・会計）

6　全国大会について
①　三重大会（令和６年度）
②　徳島大会（令和７年度）
7　ブロック大会について　（参加県理事）
①　令和５年度
②　令和６年度
8　閉会の言葉

大会宣言

未来を担う子供たちには、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築など、社会の急激な変化に主体的に対応し、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することが求められている。

しかし、家庭生活の多様化や消費生活の変化など、子供たちを取り巻く環境には様々な問題が指摘されている。そのため、家庭生活を大切にする心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う家庭科教育の一層の充実が期待されている。

家庭科教育の果たす役割の重要性を自覚し、全国の教師がこぞって神奈川県に参集し、家庭科教育のさらなる拡がりと深化を図るため、大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」研究主題「自らの生活を豊かに創造する子どもの育成」のもと、研究と協議を重ねた。

この研究成果を生かし、全面実施四年目を迎えた学習指導要領のもとに、家庭科教育をさらに充実・発展させていくために、第六十回全国小学校家庭科教育研究会　全国大会　神奈川大会の名において、次のことを高らかに宣言する。

一、生きる力を育む家庭科教育の一層の充実・発展のために、家庭生活や自己を見つめ、かけがえのない家族や地域の人々とともに、家庭生活をより豊かにする創造力や実践力などの育成に努める。

二、社会の要請に応えるために、小・中・高等学校における家庭科教育の系統性を重視し、家族・家庭生活に関する教育の充実、食育の推進、持続可能な社会の構築に向けて、自立した消費者の育成などに努める。

三、衣食住などの生活における自立の基礎を培うために、家庭・地域との連携を一層深め、日本の生活文化の大切さに気付かせるとともに、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や家庭生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度の育成などに努める。

四、家庭科教育の充実・発展のために、教育課程の編成・実施、教材の開発、教員の資質向上に向けた研修、施設・設備の充実など、諸条件の整備に努める。

令和五年十月二十七日
第六十回　全国小学校家庭科教育研究会　全国大会　神奈川大会

第60回全国小学校家庭科教育研究会全国大会　神奈川大会

神奈川大会を終えて

全国小学校家庭科教育研究会全国大会
神奈川大会実行委員長
横浜市小学校家庭科研究会会長
本庄　則子

秋たけなわの神奈川県横浜市において、「第60回全国小学校家庭科教育研究会全国大会神奈川大会」並びに「第39回関東甲信越地区小学校家庭科研究大会神奈川大会」を開催できましたことに感謝し、開催にあたりご理解、ご協力を賜った全国の皆様に御礼申し上げます。

神奈川大会では、大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」を受け、自らの目標や願いをもち、よりよい生活を工夫し創造しようと主体的に実践していく子供を育てようと、研究主題「自らの生活を豊かに創造する子どもの育成」を設定いたしました。

これからの子供たちには、変化の大きな時代を生き抜くために、未知の課題にも積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力が必要です。そのためには、家庭科の学習の中で、実践的・体験的な学習活動を通し、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な問題に対して状況に応じた最適な解決方法を探り出そうとする授業を実践していくことが大切です。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、調理実習や参集での授業研究会などを見合わせる期間もありました。その中でも横浜市小学校教育研究会では、子供たちや先生方の「学びをとめない」を合い言葉に研究を継続する工夫をしてまいりました。当日は、公開いたしました10学級の授業を通した子供たちの姿から研究の一端を紹介し、多くのご示唆をいただきました。また、全国6地区の実践発表を通し、多くのことを学ばせていただきました。

本大会開催に際し、ご多用の中丁寧にご指導いただきました文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 熊谷有紀子様、元教科調査官 筒井恭子様、全国小学校家庭科教育研究会会長 加園正子様をはじめ多大なるお力添えをいただいた皆様方に心より感謝を申し上げますとともに、全国小学校家庭科教育研究会のますますのご発展と次期開催三重大会のご盛会を祈念いたし、結びといたします。

大会要項

1　大会主題　「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」
2　研究主題　「自らの生活を豊かに創造する子どもの育成」
3　主　　催　全国小学校家庭科教育研究会　関東甲信越地区小学校家庭科教育研究会
神奈川県小学校教育研究会家庭科部会　横浜市小学校家庭科研究会
4　後　　援　文部科学省・神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会
全国連合小学校長会・神奈川県連合小学校長会・横浜市立小学校長会
神奈川県PTA協議会・横浜市PTA連絡協議会
5　期　　日　令和5年10月27日（金）

8:30	8:50	12:00	13:30	16:30
受付	公開授業・分科会	昼食・移動	全体会 開会行事・地区発表・全体指導・閉会行事	

6　会　　場　授業公開　横浜市立東小学校　横浜市西区東ヶ丘59
横浜市立桜岡小学校　横浜市港南区大久保1－6－43
全体会場　テンネー記念ホール　（関東学院大学　横浜・関内キャンパス）
7　全体指導　文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官　熊谷有紀子様
8　参加費　5,000円（資料参加費　3,500円）

神奈川県の研究

大会主題

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

研究主題（神奈川大会）

自らの生活を豊かに創造する子どもの育成

日常生活に活用できる基礎的な知識及び技能を身に付けている子供	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、考えたことを表現できる子供	家族や地域の人々と関わりながら家族の一員として生活をよりよくしようと工夫し、実践する子供

育てたい子供の姿

これからの社会を担う子供たちには、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築など、現代的な諸課題に対応し、主体的に対応することが求められている。しかし、家庭生活や社会環境の変化による家庭や地域の教育機能の低下等、子供たちを取り巻く環境には様々な問題が指摘されている。

未来を担う子供たちには、変化の大きい時代をたくましく生き抜くために、未知の課題にも積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことが求められる。こうした学びの源となるのは、子供の学びに向かう力であり、これを引き出すためには、日常生活の中から問題を見いだして、課題を設定できるように、子供たちの学びへの興味や関心を高める必要がある。そして、様々な問題に対して状況に応じた最適な解決方法を探り出そうとする子供の姿を目指し、家庭生活を大切にする心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する能力と、実践的な態度や豊かな人間性を育てることへの強い願いと期待を込め、本研究主題を設定した。

視点１　資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント

家庭科では、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育成することが、教科の最終目標として明確に示されている。つまり、身に付けた知識及び技能を活用して、家族や地域の人々との関わりの中で、生活をよりよくしようと工夫する能力と進んで実践しようとする意欲的・実践的な態度を育てることが重要である。そのために、教師が子供の実態を把握し、小中５年間の見通しをもち、教科目標に示された資質・能力やそれらの育成につながる指導の在り方を的確に捉え、家庭科で目指す資質・能力の系統や学びの過程について考えていく必要がある。

研究においては、次の㈠から㈤のように、題材や学年等で育てたい子供の姿を明確にしながら、題材配列及び年間指導計画を工夫するとともに、他教科等の学習、学校行事等との関連を図った年間指導計画を立てたり、家庭や地域等と連携した実践活動を取り入れたりするなど、資質・能力の育成に資するカリキュラム・マネジメントを推進する。

(ア) 問題解決的な学習の工夫
(イ) 生活の営みにかかる見方・考え方を働かせる学習指導の工夫
(ウ) 言語活動の充実と ICT 機器の効果的な活用
(エ) 指導と評価の一体化
(オ) 評価方法の工夫・改善

視点２　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価の工夫

家庭科では、従前より問題解決的な学習を重視しているが、これからは学びの過程がより明確に示され、一層の充実が求められている。学習指導要領の第３の１(1)の配慮事項には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善に当たり、家庭科の学習を新たな視点から見直して改善し、各題材の内容や時間のまとまりを見通しながら資質・能力を育成する三つの柱「何を理解しているか・何ができるか（知識及び技能）」「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」が偏りなく実現するよう授業の質を高めていく工夫が求められている。

研究においては、次の(ア)から(オ)を踏まえた授業づくり、授業改善に取り組むことを通して、主体的・対話的で深い家庭科の学びの実現を目指す。

(ア) 育てたい子供の姿の明確化
(イ) 他教科等の学習、学校行事との関連を図った年間指導計画
(ウ) 家庭・地域と連携した実践活動の設定
(エ) 効果的な家庭・地域への情報発信と実践の充実

視点３　誰もが安心して豊かに学ぶための今日的な課題への対応

家庭科における学習内容の定着を図り、一人ひとりの個性を生かし伸ばすようにするためには、子供たちの特性や文化的背景、生活体験などを把握し、誰もが安心して豊かに学べる授業づくりに取り組むことが大切である。横浜市では、人権教育のことを、「人権尊重の精神を基盤とする教育」とし、人権教育は、各教科領域はもちろん、行事や特別活動など、全ての教育活動において行われるものであり、「全ての教育活動において、児童生徒一人ひとりの人権が尊重されなければならない」という意味が込められている。家庭科の学習においても、日々の授業が、「人権尊重の精神を基盤とする授業になっているか」、言い換えると、「『だれもが』『安心して』『豊かに』学べる授業になっているか」という視点で、授業づくりを進めている。

研究においてはだれもが安心して豊かなに学ぶために、そして、今日的な課題にもよりよく対応するために、授業づくり、次の(ア)から(エ)を踏まえて、授業改善に取り組む。

(ア) 人権教育や多文化共生の視点から誰もが安心して学ぶための家庭科の授業づくり
(イ) 自立した消費者としての素地を培う家庭科の授業づくり
(ウ) 食育の充実に向けた家庭科の授業づくり
(エ) 持続可能な社会の構築に向けた家庭科の授業づくり

参加者の声

第60回　全国小学校家庭科教育研究会全国大会　神奈川大会に参加して

三重県四日市市立中央小学校　**長﨑　雅子**
（次年度開催県実行委員長）

港湾都市である横浜市の風景は美しく、日中は海の青さで心が晴れわたり、日没後は絶景夜景に心を奪われました。都会を感じる全国大会のスタート、公開校の児童の笑顔や挨拶、論理的思考で発言する姿、美しい歌声などを通して、どの地域においても子供たちの姿は等しく尊いとも感じました。子供たちの学びをもとにフルスペックで大勢の方と出会い、協議する機会を整えてくださった神奈川県の皆様に感謝しながら、三重県からは十数名で参加し、2会場に分かれて参観しました。子供たちや先生方の姿から、コロナ禍においても「学びをとめない」を合い言葉に研究を継続して積み上げられてきたことが強く感じ取れました。家庭科を通して課題解決していく成果を、他教科等においても学びの実感や手応えのある授業デザインにつなげていくカリキュラムマネジメントは素晴らしいものでした。

全体会における文部科学省教科調査官の熊谷有紀子先生からは「目の前の子供たちの資質能力の向上のために、今やっていることに磨きをかけることが大切である。」という言葉がありました。会員総数一桁の三重県としては、「ともに生きる生活者の育成」をめざし、学びを自分の生活に置きかえて思考を深化させていく子供を生み出す授業デザインに磨きをかけていきたいと考えております。

令和6年度は、三重県亀山市において第61回となる大会を開催いたします。神奈川大会の研究成果を受け、三重県らしさを活かす研究・授業を発信できればと思っております。

神奈川大会実行委員長　本庄 則子 様をはじめ、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、神奈川県小学校教育研究会家庭科部会のますますのご発展を祈念いたします。

第60回全国小学校家庭科教育研究大会　神奈川大会に参加して

徳島県阿南市立横見小学校　**森下　稲子**
（令和7年度開催県会長）

令和5年度の全国小学校家庭科教育研究会横浜大会は、4年ぶりの参集型開催となり、多くの参加者で賑わっていました。私自身、家庭科の全国大会に参加するのが初めてだったので、できるだけ多くのことを学んで帰ろうという気持ちで参加させていただきました。

「百聞は一見にしかず」の言葉のとおり、実際にその場で授業を見せていただき、子供のつぶやきを聴いたり、教室の様子を感じ取れたりするよさを改めて実感しました。

前日のレセプションでは他県の先生方と情報交換ができたり、全体会では各地区の具体的な取組について紹介していただいたりし、参加してよかったと思うことばかりでした。

横浜市では、若い担任の先生方が授業者となり一生懸命授業をしている姿や、子供たちが生き生きと授業に参加している姿を見て感動しました。このような楽しい家庭科の学習の積み重ねが、実生活での実践力につながっていくと感じました。

今回は、徳島県から研究部員や全国大会会場校の教員十数名で参加しました。2年後の本県開催に向けて、開催する側の視点でもたくさん学ばせていただき、多くの示唆をいただきました。今回の学びを生かして、令和7年度徳島県において開催予定の全国大会に向けて、研究を進めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、神奈川大会実行委員長 本庄則子 様はじめ関係の皆様に深く感謝を申しあげます。そして、神奈川県家庭科教育研究会のますますのご発展を心よりお祈りいたします。

公開授業　横浜市立東小学校

第５学年１組　　指導者：中村　　聖

第５学年２組　　指導者：為国たまみ

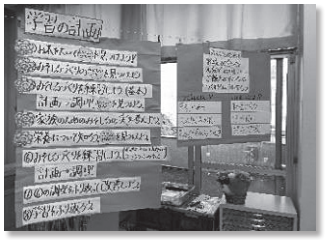
「食べて元気に　ご飯とみそ汁」

１　授業の概要

5－1 ご飯と味噌汁の単元は日本以外の食文化に触れることから始めた。日本以外の食文化に触れることで、様々な国の文化の大切を理解できるように単元を組んだ。外国に繋がる児童が多いので給食を共通の題材とした。そうすることで安心して参加できた。献立表を見ながら献立を考える姿も見られ、国際教室と連携を大切にしながら授業を作った。よりよい家庭生活の実現に向け、味噌汁の実を選ぶ時間を長く設定し、しっかり考えることができた。

5－2 指導と評価の工夫のためにペア活動を中心にした。計画を伝え合うことでコミュニケーション能力も育めた。問題解決的な学習の場面では相手意識を明確にして考えることができた。味噌汁の実を選ぶ根拠として、栄養は一つの手段とした。「よりよくするには」という視点で繰り返し学び、家庭科は家庭生活に繋がる大切な教科ということが理解できてきた。

２　指導講評



外国に繋がる児童が多いので様々な食材を提示したり給食を活用したりすることで多様性を意識することは大切である。子供たちは、わかっていると思っても案外わかっていないので、考えさせるときに掲示物が必要となる。

学校でやったことを評価し、考え家庭実践に繋げるのはすべての授業で行うべきことである。やったことを振り返り繰り返すことが大切である。

ワークシートについて「できること、わかったこと」だけを求めるのではなく、今まで気付かなかったことに気付けたことが大事である。例えば、「炊飯器で当たり前にご飯を炊いていることが難しいと気付く。家族は献立を考えているときに多くのことを考えている。だから自分も家族を意識して献立を考えようとする。」である。子供によって考え方や反応は違うので、その子に合わせて気付いたことが表現できるように工夫するとよい。

第６学年１組　　指導者：加藤　真代

「家族のためにつくろう　１食分の献立
～給食プロジェクト編～」

第６学年２組　　指導者：大田　桃可

「家族のためにつくろう　１食分の献立
～家庭実践編～」

１　授業の概要

6－1 多くの外国と繋がりがある児童の実態があり、食事も多様化している背景がある。給食を共通教材として扱うことで、同じ目線で話し合うことができるようにした。

6－2 経験や文化の違いがある中でも、みんなが安心して学習できるように考えた。味噌汁作りでは、家庭での実践に繋げるために、思いをもって作ることや日常的な調理に繋げたい。学校での実に合わせることで、家庭実践にずれが生じるため、まずは給食で献立作りを行うことで、ずれを解消して献立を考えられるよう、カリキュラムマネジメントした。

２　指導講評

一つの題材としてスタートしたが、児童の実態や家庭の状況から家庭での実践ありきで題材を進めていいのかを見直した。まず同じ土台で学習できるように全員にとって共通の教材として給食で学習し、その学習を使って家庭への実践へ繋げる、という二部構成にすることとなった。このようにカリキュラムの組み方は自由で題材構成を工夫できる良さがある。題材構成を工夫することによって、児童にとってより必然性のある学習となる。導入部分の授業は、５年生からの積み重ねやこれまでの振り返りから自分たちで課題設定ができていた。そこには、児童にゆさぶりをかける教師の声かけが必要となる。栄養教諭に授業に入ってもらって学習を進めることはとても効果的である。児童のやりとりの中で栄養に関する言葉が飛び交っていた。しっかりと児童の力として身についている。

横浜では一人１調理は、スタンダードになっている。同時に様々なことを考え、効率よく調理することを考えられるようになってほしい。調理の計画は、自分の動きや手順をシュミレーションするためのもので、２品同時調理を、学校で是非取り扱って経験させてほしい。

公開授業　横浜市立桜岡小学校

第一部会　「資質・能力を育む カリキュラム・マネジメント」

第５学年３組　指導者：執行　雄介
「チャレンジ！家庭の仕事」

第６学年１組　指導者：松村　祐希
「家族のために長く使える袋を作ろう」

１　授業の概要

５年の授業は、４月のガイダンスからカリキュラムを工夫した。夏休み前の仕事の計画とその後の振り返り、一週間チャレンジとその振り返り、それを生かして次の一週間チャレンジへと工夫・改善を進めた。半年間、継続的に家庭の仕事について考えることにより、児童が自分ごととして課題をもち、計画と実践を繰り返すことで、工夫・改善しながら深めることができてきた。

６年の授業は、自信をもってミシンを扱い、見通しをもって袋作りに取り組んでほしいと願い、２年間の製作に関する題材の系統性を見直した。７月に「タブレット端末を入れる袋作り」を行ったことで、「家族のために長く使える袋を作ろう」では、一人ひとりが見通しをもって取り組むことができた。

また、家族に感謝する気持ちをもち、家族のために製作する袋について考えることから、より主体的な学びにつなげていくことができた。

２　成果と課題

○ 資質・能力の育成を図るグランドデザインをもとに、教科等、各学年で年間指導計画を作成することにより、子供の実態を見ながら、授業の流れを柔軟に考えていくことができるよさがある。

○ 内容の系統性や年間指導計画の時数などを総合的に考慮してカリキュラム・マネジメントをすること。そして、何より、育てたい資質・能力を明確にし、児童の実態を把握して指導することが大切である。

第二部会　「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価の工夫」

第５学年２組　指導者：吉田　　道
「クリーン大作戦　PARTⅠ～整理・整頓編」

第６学年２組　指導者：杉本　希未
「知ろう　探ろう　私たちの消費生活」

１　授業の概要

５年の授業は、身近な物の整理・整頓をすることから、校内の整理・整頓が必要な場所を探し、整理・整頓する前後を紹介し合い、その仕方やよさについて話し合う。本時では、時間が経っても整っている所とそうでない所があることに気付き、次に使う人のことや継続するためのポイントなどについて話し合い、これからの家庭実践に生かしていこうとする姿が見られた。一人一人の丁寧な見取りとそれに基づいた指導と評価、このスパイラルの上に成り立っていた授業であった。

６年の授業は、「Ｃ　消費生活」に関する指導事項の系統性を見直し、自立した消費者としての資質や能力の育成を目指してカリキュラムをマネジメントした。教師の自作による「22才の本気の生活ゲーム」を通して、児童が様々な場面で物の選び方や買い方を考えるようにした。自分の買い方や物の選び方を見直し、話し合うことから、自分と違う考え方を知り、お金は限りあるものであること、よりよい消費生活をしていこうとする思いをもち、考えを深め合うことができた。教師が、題材を通して一人一人の考えを見取り支援することで、安心して話し合うことができていた。

２　成果と課題

○ 消費生活・環境については、小中学校５年間の系統性を見直し、連携を図り継続的に指導していくことが大切である。

○ 評価は、児童の進化を見取ることである。今後、思考・判断・表現の観点や主体的な態度の観点にかかる指導や評価について考えていくことが求められる。

公開授業　横浜市立桜岡小学校

第三部会　「誰もが安心して豊かに学ぶための今日的な教育課題への対応」

第５学年１組　　指導者：大野　博子
「クリーン大作戦　PARTⅡ」

第６学年３組　　指導者：谷口　淑生
「衣服の手入れプロジェクト　洗濯編

１　授業の概要

５年の授業は、学校内での「クリーン大作戦」に取り組んできたことを振り返り､家庭での「クリーン大作戦」に生かしていこうとする心情や態度を育てることをねらいとしている。

児童が清掃の前後の様子をタブレット端末で撮影し学習活動を見取り、学びのプロセスを掲示物にまとめ、自分の学習を積み上げてきたことを実感としてもち話し合うことができた。「そうじの基本・コツ」や環境に配慮した清掃の仕方については「エコポイント」として整理して学習を進めてきた。清掃の工夫を互いに紹介し合いながら、家庭実践に向けて考え計画することができていた。

６年の授業では、「洗いたい１着の洗たく計画を工夫しよう」というねらいで、一人一人が自分の課題とその解決方法を考え確かめながら、計画を立てる学習である。洗い方や絞り方、環境に配慮した洗濯の仕方などを試しながら、計画を立てていくことができた。このような課題と解決にむけた取り組みについて、教師の丁寧な見取りと指導の工夫を繰り返すことで、児童が自信をもってタブレット端末で複数の解決方法を撮影し、比較・検討しながらよりよい方法を考えることができた。

２　成果と課題

○ 清掃の前後の様子をタブレット端末に撮影して話合いで活用すること、実験や観察したことをまとめることなど、情報機器の活用が主体的にできていた。
○ 今後も、いろいろな学習場面でタブレット端末の有効な活用について考えていくようにする。

授業校　全　体　会

東小学校全体会

1　校長あいさつ
2　神奈川県の家庭科教育 研究概要
3　横浜市立東小学校 研究概要
　外国につながる児童が約３割を占める本校では、人権教育や多文化共生の観点から、誰もが安心して学ぶための家庭科の授業づくりを研究の柱として進めてきた。
4　講演
◇横浜国立大学　教育学部
　　教授　杉山　久仁子　様
　調理実習が、学習したことを確認したり、評価・改善をしたり、「他のものではどうだろう」と考えたりする学習の場となるような授業づくりを意識してほしい。主体的な学びになるような課題の設定が大切である。
◇横浜市教育委員会 教職員育成課
　　主任指導主事　大平　はな　様
　これからの家庭科教育の可能性と授業デザインについて、時代や環境の変化に合わせて、自立、共生、豊かさをとらえなおし、子供観の拡張、題材のデザイン、多様性を生かしていく必要がある。
5　閉会の言葉

桜岡小学校全体会　鼎談会

「資質・能力は本当に身に付いた？
　　～今後あるべき授業の姿とは～」
講師
横浜国立大学教育学部
　　教授　堀内かおる　様
慶応義塾大学教育課程センター
　　教授　鹿毛　雅治　様
横浜国立大学教育学部
　　名誉教授　高木　展郎　様

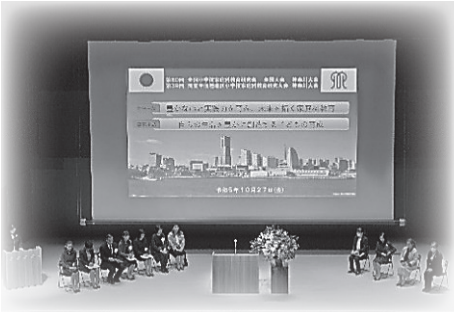
「カリキュラムマネジメント」の視点から
カリキュラムマネジメントの視点をおさえ、資質・能力の育成を題材全体で行うことが大切である。

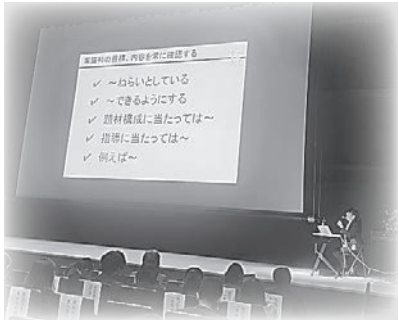
「指導と評価の工夫」の視点から
いい気付き、いい問いが生まれているかに心を砕き、それを見取って伝え、授業を活性化するようなダイナミズムを生むことができている授業が資質・能力の育成につながる。

「今日的な課題への対応」の視点から
子供たちが自分ごととなり、視野を広げ家庭生活を見つめ直し、根拠をもって選択できるようになる様々な機会を学校の家庭科の授業でつくるということが重要である。

神奈川大会の様子

全体会（テンネー記念ホール）





授業校（横浜市立東小学校）

授業校（横浜市立桜岡小学校）

指導講評

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所
教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
熊谷　有紀子　先生

新しい学習指導要領
生きる力
学びの、その先へ

第60回　全国小学校家庭科教育研究会全国大会
神奈川大会

文部科学省　初等中等教育局　教育課程課　教科調査官
国立教育政策研究所　教育課程研究センター　教育課程調査官
熊谷　有紀子

文部科学省

令和5年度　大切にしていきたいこと

学習指導要領の「よりよい実施」を目指して

- 家庭科の目標、内容を常に確認しながら取り組む
- 「問題を見いだして、課題を設定する」学習過程を充実させる
- 小・中・高等学校の内容の「つながり」を意識する

家庭科の目標、内容を常に確認する

- ✔ ～ねらいとしている
- ✔ ～できるようにする
- ✔ 題材構成に当たっては～
- ✔ 指導に当たっては～
- ✔ 例えば～

「問題を見いだして、課題を設定する」学習過程を充実させる

- ✔「問題を見いだして、課題を設定する」ためには、先生の手立てが「カギ」となる
- ✔子供の実態を把握し、子供の意識の流れに沿った題材を構成し、子供主体の課題設定ができる授業改善を

小・中・高等学校の内容の「つながり」を意識する

- ✔小学校家庭科の内容は小学校2学年間で着実に実施し、子供たちの資質・能力を育成する
- ✔子供、学校、地域の実態に合わせ、小学校は2学年間を見通して、計画的に題材を配列する

おわりに

子供たちの資質・能力を育成するために

学習指導要領の
「よりよい実施」
を目指す

全国の子供たちのために
先生方の「つながり」を大切に
みんなで実践を積み重ねていく

各地区研究だより

〈北海道・東北地区〉

第38回北海道・東北地区小学校家庭科教育研究大会山形大会を終えて

山形県小学校教育研究会家庭科部会
会長　**粕谷　温子**

令和5年度11月17日(金)に、第38回北海道・東北地区小学校家庭科教育研究大会を、山形県鶴岡市立朝暘第三小学校を会場に開催することができました。

過去3年にわたり、新型コロナウイルス感染症による学校休業・学級閉鎖や教育活動への制限等がありました。そのような状況でしたが、北海道・東北の皆様と実際に顔を合わせ、子供の姿から家庭科の授業について語り合いたいという思いから、4年ぶりの参集型での大会を開催するために準備を重ねてまいりました。

本大会の研究は、大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」を踏まえ、「家庭・地域・社会とつながり、学びを生かす子どもの育成」を研究主題といたしました。研究の視点として、「学びを支える指導計画」「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善」「家庭・地域・社会とのつながり」の3つを掲げております。家庭・地域・社会に関心をもち、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的に実践する子供を育成するための指導の在り方を研究してまいりました。

当日は、持ち込み授業を含む各領域から3つの授業を公開し、その後の分科会では、3～4人の小グループでのKJ法を用いた話し合いを行いました。全体会では、助言者の先生方から、ご示唆に富むご指導をいただきました。さらに、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官熊谷有紀子様には、「小学校家庭科教育の充実に向けて」と題して、記念講演をいただき、家庭科教育に関する学びを深めることができました。至らない点も多々あったことと存じますが、参加していただいた皆様より温かいお励ましの言葉をいただきました。本大会が、家庭科教育の充実・発展に寄与することができれば幸甚です。

結びとなりましたが、本大会の開催にあたり、ご指導賜りました先生方、ご参加下さいました皆様、お世話になりましたすべての皆に心より感謝申し上げます。

〈近畿地区〉

第53回近畿小学校家庭科教育研究大会神戸・兵庫県大会を終えて

兵庫県小学校教育研究会家庭科部会
会長　**野田　美保**

第53回近畿小学校家庭科教育研究大会神戸大会11月20日に開催しました。インフルエンザやコロナの流行による学級閉鎖等が懸念されましたが、近畿・兵庫県下各地から神戸に多くの皆様に参集していただき、これまで神戸で積み上げてきた家庭科教育を見ていただくことができました。コロナ明けの大会でしたが、参集型でできるだけシンプルな運営を行いました。皆様にはご不便をおかけした点もあるかと思いますが、何かとご協力をいただきありがとうございました。

今回の研究会では主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育～これからの社会を共に生きる力を育む　体験・体得・体現～」と設定しました。よりよく生きる力を得るためには、「体験」「体得」「体現」の3つの過程が必要であると考え、持続可能な社会を構築できる子供の育成を目指して研鑽に励んできました。

①生きる力の土台となる「体験」
②体験による学びや気付きが「体得」
③それをよりよく生かすことが「体得」

このようにピラミッド状に成り立つ学びを積み重ねていくことで子供たちは「生きる力」を習得していきます。これこそが、生活をよりよくしようと工夫する資質や能力の育成につながるという考えに基づき、研究を進めました。

そして、神戸市立井吹東小学校を会場に、低学年から高学年への家庭科授業、さらに中学校家庭科へとつながりを大切に考え、生活・総合の方とも協力をしていただき、9つの授業を提案させていただきました。今後も今回参会された皆様からいただいたご意見を参考に、今後の家庭科教育発展のために、研究・実践を深めていきたいと思います。

大会の開催にあたりご指導ご助言をいただきました文部科学省教科調査官　熊谷有紀子様をはじめ、ご指導いただきました多くの方々に感謝申し上げます。

〈中国・四国地区〉

第21回中国・四国小学校家庭科教育研究大会高知大会を終えて

高知県小学校教育研究会家庭科部会
会長　**宇佐美　佳枝**

令和５年度の第21回中国・四国小学校家庭科教育研究大会高知大会は、令和６年２月９日にWEB・オンライン形式というハイブリッド方式で行う予定です。

本県におきましては、大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」を受け、「自分の思いやよさを生かし、よりよい生活を創り出す子供をめざして」を研究主題に設定し、研究の視点として「カリキュラムマネジメント」「主体的・対話的で深い学びにつなげる学習指導の工夫」「評価の工夫」の３点を掲げ、県内各地において日々の授業改善により研究を進めて参りました。

動画配信しました授業は、第５学年「めざそう買い物名人」と第６学年「持続可能な社会に生きる」です。第５学年の授業は、令和２年度から３年間にわたり高知県消費生活センターと共同研究開発した消費者教育副教材『高知と世界をよくする消費者に！めざそう買い物名人』を使用したものです。公開授業は「品物の選び方を考える」場面で、実物の豆腐のパックを並べ、表示などを見比べながら、自分の家族のためにどれを選ぶか考えたり、友達と意見を交流したりするなどの課題解決に向けた実践活動の場面です。また、第６学年の授業は、SDGsの視点から自分自身の生活を見直し、問題点を見いだし、解決のための方法を提案する全６時間の授業を編集して配信していますので、題材全体のイメージをもっていただけるものとなっています。２月９日の研究大会当日のオンライン研究協議会では、授業動画を見ていただいての活発な意見交換やご示唆をいただければと考えております。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、丁寧なご指導ご助言をいただきました文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　熊谷有紀子先生をはじめ、高知大学教育学部の先生方、そのほか本大会に関わってくださったすべての皆様に深く感謝申し上げます。今後もさらに中国四国地区の家庭科教育の充実に向けて研究を進めて参りたいと思います。

〈九州地区〉

第53回九州地区小学校家庭科教育研究大会鹿児島大会を終えて

鹿児島県小学校教育研究会家庭科部会
会長　**遠矢　美緒**

令和５年11月17日に、第53回九州地区小学校家庭科教育研究大会鹿児島大会を、４年ぶりの参集形式にて開催致しました。コロナ禍明けの九州大会とのことで、従前の大会とは様々な面で相違があることを計画段階から強く感じ、業者をできるだけ使用しないことや参加費を検討することなど、「スクラップ＆ビルド」の精神で運営して参りました。

本大会に向け、大会主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」のもと、研究主題を「生活をよりよくしようと工夫する実践力を育む家庭科教育」と設定し、日々の家庭科授業のあり方を追究して参りました。５年次研究となる本大会では，これまでの研究を総括し，副主題を「生活をよりよくする工夫を見いだし、自らの生活に生かすことのできる学習指導の充実」とし、学んだことを家庭や日常生活に生かして実践しようとする態度を育成するために、子供の思いや願いを大切にする事に重きを置きながら研究を重ねて参りました。

研究授業は，鹿児島市立向陽小学校にて４学級の公開授業を行いました。5年生「食べて元気に」6年生「こんだてを工夫して」のどちらも2学級ずつ、同題材の異なる時間を公開しました。どちらの学年でも１学級は栄養教諭の先生にTTで入っていただきました。そのため，栄養教諭の先生方も多数御参加いただきました。記念講演は鹿児島大学准教授黒光貴峰先生から「学習者からみた各教科の捉え方と教科観―家庭科に対するイメージと家庭科を学んだことによる意識の変化―」について、データに基づく大変興味深いお話しをいただきました。

本大会で得られた成果と課題は、九州各県の皆様に参考にしていただくと共に、今後の鹿児島県家庭科教育発展のために生かしていく所存です。

本大会の開催にあたり御指導や御助言をいただきました関係各所の皆様方に心から感謝申し上げます。

学びを生かし，生活をよりよくしようと工夫する子供の育成

仙台市小学校教育研究会家庭科部会・仙台市立栗生小学校

Ⅰ　研究主題設定の理由

近年、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化に加え、グローバル化や少子高齢化の進展、人工知能の進化、持続可能な社会の構築等、社会は急激な変化に見舞われている。将来を担う子供たちには、このような今までに経験したことのない変化を乗り越え、自立的・主体的に生きる力が求められている。

しかし、子供たちの状況を見ると、家族の一員としての意識をもって家庭の仕事を分担したり、地域の人々と関わったりする経験の不足等が課題として挙げられている。

そのような状況において、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにすること、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、課題を解決する力を養うこと、家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことはとても重要である。

そこで、生涯にわたって自立し、自らの生活を創造するための基盤となる資質・能力を身に付け、学びを生かし、生活をよりよくしようと工夫する子供の育成を目指し、本研究主題を設定した。

Ⅱ　めざす児童像

⑴　日常生活に活用できる知識及び技能を身に付けている子供　【知識及び技能】

⑵　日常生活の中から問題を見いだし、設定した課題を解決したり、考えたことを表現したりできる子供　【思考力、判断力、表現力等】

⑶　家庭や地域に関わりながら生活をよりよくしようと実践する子供　【学びに向かう力、人間性】

Ⅲ　授業実践

1　題材名

「買い物名人になろう」

内容Ｃ消費生活・環境⑴⑵ア

2　題材の目標

⑴
- 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解する。
- 身近な物の選び方、買い方を理解するとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解する。　（知識及び技能）

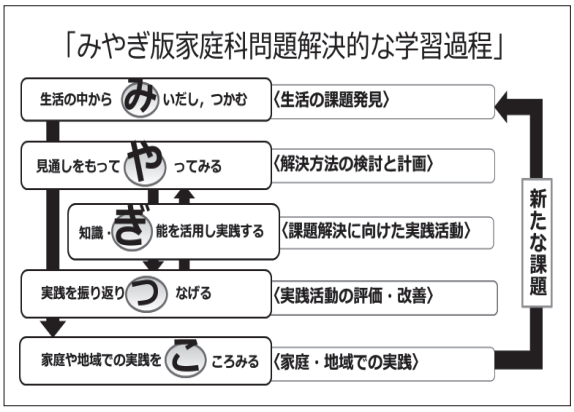
⑵　身近な物の選び方、買い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。（思考力、判断力、表現力等）

⑶　家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買物について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。　（学びに向かう力、人間性）

3　指導にあたって

⑴　みやぎ版家庭科問題解決的な学習過程

授業を進めるにあたって、みやぎ版家庭科問題解決的な学習過程に沿って、学びを進める。



(2) 研究の視点

視点1 カリキュラム・マネジメント

5学年の総合的な学習の時間「米っ子くらぶ」、社会科「わたしたちの生活と食料生産」の学習と本題材における「自分の目的に合った買い物の仕方」「環境に配慮した物の使い方」に関する学習を関連させながら学ぶことができるようにする。

また、栗生小では食育の日に「弁当の日」を2日設けていることから、本題材と食育の日を関連付け、栄養教諭と連携した指導を行うことで、学んだことを「自分の生活に生かす」という目的を持って実践できるように工夫する。

視点2 深い学びにつながる指導方法の工夫

タブレットを活用し、商品を購入する際に大切にしていることを共有させたり、買い物計画書を作る上でどのようなことを意識して計画したのかを発表させたりして、各自の思考過程を視覚化する。

また、仙台市消費生活センターWeb教材
「伊達学園・授業でござる」
http://dategakuen.com/lesson/
を活用し、すごろくやスクロールゲーム、クイズなどを通し、消費者被害に遭わないこつや環境にやさしいくらしについて考えさせるようにする。

4 指導の実際

(1) 小題材名
「買い物の仕方を工夫しよう」

(2) 本時のねらい
身近な物の選び方、買い方、環境に配慮した物の使い方について実践計画を考え、工夫する。

(3) ねらいにせまるための手立て

- 複数の観点から比較・検討して考えられるよう、前時までに学習した観点を想起させた。

- 比較・検討させる観点を随時確認したり、一度に確認したりできるよう、ジャムボードを活用させた。

5 成果と課題

視点1

【成果】総合的な学習の時間と社会科及び弁当の日を関連させた題材構成は児童にとって、必要感があり、自分事として捉え、目的をしっかり持って取り組む意欲につながった。

【課題】生活をよりよくしようと工夫させるための現実的な食材の購入計画や例とする弁当の内容を検討すると更に学びが深まる。

視点2

【成果】ジャムボードを活用し、付箋での色分けをさせたことにより、児童全員の考えが一目で分かり、学びの広がりが見られた。

【課題】一人一人の見取りや評価の仕方、Cとなる児童への支援の在り方を検討する必要がある。

令和6年度全国大会　三重大会

家庭科教育をともに推進していきましょう。三重県亀山市へお越しください。

第61回 全国小学校家庭科教育研究会

1　大会主題

「豊かな心と実践力を育み、
未来を拓く家庭科教育」

2　研究主題

「共に生きる生活者の育成をめざして」

3　期　　日　令和6年11月22日（金）

4　日程・会場　※時間は現時点の予定です

【令和6年11月21日（木）】亀山周辺会場

15時～　全国理事会

16時30分～　レセプションまたは情報交換会

【令和6年11月22日（金）】

第1会場　亀山市立亀山西小学校

9:00　9:30　10:30　11:30

受付	公開授業Ⅰ(9:30～) 公開授業Ⅱ(9:45～)	全体協議・指導助言

第2会場（全体会場）　亀山市文化会館

9:00　9:30　11:00　11:30

受付	授業録画放映　授業者解説　協議	展示物説明

11:30　13:30　16:30

昼食 移動	全　体　会			
	開会行事	調査報告・全国 地区研究発表	全体指導	閉会行事

5　全体指導

文部科学省初等中等教育局
教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター
研究開発部教育課程調査官
熊谷　有紀子　様

6　参加費　5,000円（予定）

7　問い合わせ先

【三重県大会事務局】
四日市市立中央小学校長　長﨑　雅子
〒510-0095　四日市市元新町2-36
TEL　059-353-9279　FAX　059-359-0108
E-mail　chuo-eteacher@city.yokkaichi.mie.jp

令和5年度　会費納入状況

番号	地　区	会員数	金　額
1	北海道	30	45,000
2	青森県	30	45,000
3	岩手県	10	15,000
4	宮城県	27	40,500
5	秋田県	10	15,000
6	山形県	20	30,000
7	福島県	8	12,000
8	茨城県	48	72,000
9	栃木県	28	42,000
10	群馬県	10	15,000
11	埼玉県	12	18,000
12	千葉県	94	141,000
13	神奈川県	13	19,500
	相模原市	2	3,000
	川崎市	17	25,500
	横浜市	18	27,000
14	山梨県	10	15,000
15	長野県	14	21,000
16	新潟県	11	16,500
17	東京都	94	141,000
	東京都（役員）	12	18,000
18	富山県	2	3,000
19	石川県	12	18,000
20	福井県	15	22,500
21	静岡県	13	19,500
	浜松市	6	9,000
22	愛知県	38	57,000
	名古屋市	19	28,500
23	岐阜県	11	16,500
24	三重県	7	10,500
25	滋賀県	16	24,000
26	京都府	11	16,500
	京都市	18	27,000
27	大阪府	42	63,000
	大阪市	5	7,500
28	兵庫県	14	21,000
	神戸市	6	9,000
29	奈良県	3	4,500
30	和歌山県	8	12,000
31	鳥取県	7	10,500
32	島根県	13	19,500
33	岡山県	26	39,000
34	広島県	16	24,000
35	山口県	15	22,500
36	徳島県	41	61,500
37	香川県	32	48,000
38	愛媛県	20	30,000
39	高知県	6	9,000
40	福岡県	12	18,000
41	佐賀県	9	13,500
42	長崎県	20	30,000
43	大分県	10	15,000
44	熊本県	18	27,000
45	宮崎県	11	16,500
46	鹿児島県	10	15,000
47	沖縄県	8	12,000
合　計		1,038	1,557,000

会費納入予算	1,500,000円
会費納入額	1,557,000円
納入者数	1,038名
予算に対する納入率	103.7%

会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

〔令和5年12月31日現在〕

編集後記

広報誌第2号は、神奈川県横浜市でおこなわれた全国大会について特集しました。異国情緒漂う横浜市に多くの方がお集まりいただきました。横浜市の実践から多くのことを学ばせていただきました。全国大会を運営してくださった皆様、ご多用の中、原稿をお寄せくださった皆様に感謝申し上げます。（広報部長　酒井　由江）